

スロヴェニアのすべて！

スロヴェニアは、1991年に建国され、地図に載ったばかりの若く小さな国です。アルプス山脈と地中海が合流する絶景地点や、ミステリアスなカルスト地域やパンノニア平原などの様々な観光スポットを擁しています。古代から、多彩で豊かな自然や文化的伝統が、作家や芸術家たちの想像力を培ってきました。スロヴェニア文学の巨匠、イヴァン・ツァンカル（Ivan Cankar）は、スロヴェニアを、まるでトリグラウ山のふもとにある天国のように描いています。様々な流れを経て、スロヴェニアという独立した、一つの国が生まれました。今では、EU（欧州連合）やNATOなど、主要な国際組織の加盟国の一つにもなっています。また、2008年の上半期には最初の新規EU加盟国となり、EU理事会議長国に就きました。

スロヴェニアの自然界は緑一色というのが特徴ですが、国内の全地域は多様性に溢れています。スロヴェニア人は、同国人の成果を心から誇りに思い、また歴史、文化、自然の遺産から、インスピレーションを受け続けています。コゾレツという干草仕掛け、軽種馬リピッツァナー、ポティツァ（potica）ケーキ、養蜂箱の板やカルニオラ蜂などの多様な文化はスロヴェニアの誇りです。また、スロヴェニアの多様性を象徴しているのが言語における特徴です。スロヴェニア語には双数形というのがある上、小さな国の中に多くの方言があるので、覚えるのに苦労する方も多いでしょう。

建築家ヨジエ・プレチニック（Jože Plečnik）、主要な発明（対数）、数多くのスポーツ選手メダリスト（登山・陸上競技）、そして大昔から人の手が加えられていないままの自然の美しさは称賛に値するでしょう。数世紀もの間に起こった歴史上の出来事が、スロヴェニアという、この若い国の文化や国民性に影響を及ぼしているのです。

アルプス山脈の南側にある国

世界の主要都市の郊外人口と同様の人数、約200万人のスロヴェニア人がこの国で暮らしています。スロヴェニアでは1平方キロメートル内に、約100人が住んでおり、これはヨーロッパ諸国の平均の約半分の人口密度に値します。スロヴェニア人が人口の大多数を占める中、国境付近には、スロヴェニアの国籍を有するハンガリー人やイタリア人の少数民族のコミュニティがあり、スロヴェニア憲法により、彼らにも国民として全ての権利を与えられています。また、主に西バルカン为国々からの多くの民族は、スロヴェニアでの永住権または一時的な居住権を有しています。

スロヴェニア人は愛国心が強く、生活の質を重んじています。スロヴェニア人は、彼ら自身を、働き者で、勤勉で、活動的、そして様々な外国語を話せると評しています。スロヴェニア人は、文化と言語を誇りにしており、それらは大切な財産であり、また国民的アイデンティティーの一部であると考えています。最も大きな国民のシンボルの1つは、ジュリア・アルプス山脈にあるスロヴェニア最高峰トリグラウ山で、伝説になるほど、崇敬されています。スロヴェニア人には寛容な人が多いとも言われています。スロヴェニア人の多くはよく旅をしますが、めったに居住場所を変えないということも、

スロヴェニア人の愛国心の強さを表わしているといえるでしょう。スロヴェニア人は、教養があり、失業率が低いことでも有名です。しかし、現在のほかのヨーロッパ社会と同様、少子高齢化の問題に直面しています。

国家

スロヴェニアは、ヨーロッパ各地で若い民主主義国が生まれる中、誕生した民主共和国です。スロヴェニアは、1991年の6月25日に独立宣言をしましたが、これはその半年前の国民投票の結果に基づいて決定しました。投票率は90パーセントで、全体の投票数の88.2パーセントが独立を支持しました。国民投票の結果、国際的に認められ、スロヴェニアは国連（UN）加盟国となりました。2004年には、EU加盟国となり、2007年には、通貨ユーロを採用し、ヨーロッパ通貨統合に参加しました。また、2008年には、EU理事会議長国に就任しました。かねてよりスロヴェニアは国際的に重要な役割を担っており、主要国の政治家や国際組織のメンバーが集い、会合する場所となっています。また、世界中の国々と友好関係を築いている国でもありません。誕生してまもない国ですが、スロヴェニアはさまざまな経験を乗り越えてきた成熟した国であり、国際情勢にも深く関わっています。

スロヴェニアの憲法は、スロヴェニ

クイックファクト


正式名称： スロヴェニア共和国

政治体制： 議会制民主主義 首都： リュブリャナ (Ljubljana) 面積： 20,273 km2 人口： 2,062,874 (2015) 通貨： ユーロ (1ユーロ = 100 セント)
言語： スロヴェニア語。多民族的地域ではイタリア語やハンガリー語も話されています

国際電話・国コード： +386 タイムゾーン： GMT/UTC +1

緊急時のための電話番号： 112 救急車 112 消防車 113 警察 1188 一般情報 1987 けん引車サービス
便利なウェブサイト： スロヴェニアに関する一般情報： www.slovenia.si , www.slovenia.info スロヴェニア政府： www.vlada.si 政府通信局： www.ukom.gov.si スロヴェニア自動車協会： www.amzs.si 天気： www.arso.gov.si

政府通信局、リュブリャナ、2015年

japonski jezik

アの議会制度が、立法、行政、司法の三権の分立理念に基づいたものであると定めています。最高意思決定機関は、4年間の任期で選出された90人の議員で構成している国民議会です。その議員のうちの一人は少数民族のイタリア人、一人はハンガリー人の代表者です。行政権はスロヴェニア政府にあります。スロヴェニア大統領は、軍の最高司令官であり、国の元首です。大統領は5年の任期で選出されます。

歴史

スロヴェニアは、1000年以上も前に、南スラブ人の先祖がこの地域に定住し、カラントニア（Karantanija）公国を建国したことが始まりであるという歴史背景があります。スロヴェニアにとってはこれが、歴史上最初の国家となります。歴史学者たちは、この時代では最も革新的であり、最も進んだ民主主義国家であったと主張しています。アメリカ合衆国憲法の起草者であるトーマス・ジェファーソンの時代に、カラントニア公国の理念が引用されることも、珍しいことではありませんでした。

今日でも、スロヴェニアの平原あるいは山脈を自由に旅する人たちは、この豊かな文化的伝統を称賛しています。また、スロヴェニアには、ハプスブルク君主国の支配の時代からの多くの伝統が残っています。スロヴェニア人は、クロアチア人や

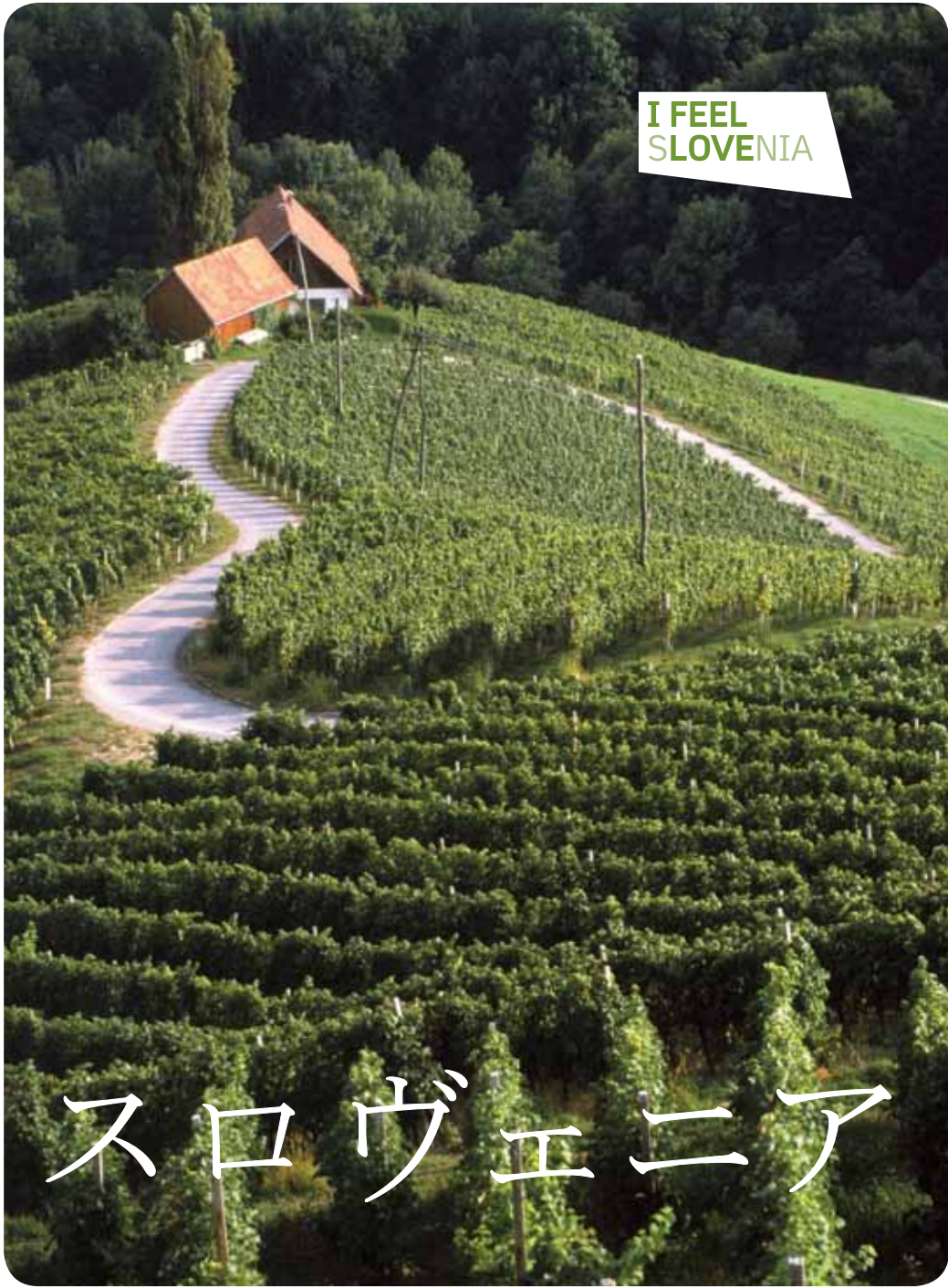
セルビア人と共に王国を樹立し、それは後にユーゴスラビアとなりました。1991年のユーゴスラビア社会主義連邦共和国の崩壊により、全く新しいスロヴェニアの時代、独立国家スロヴェニアの時代が始まったのです。この歴史的出来事は、スロヴェニア人一人一人の本当の夢が叶ったものだ、と多くの人々が口をそろえるでしょう。

数世紀の間、スロヴェニア人はその言語と文化によって民族のアイデンティティーを保ってきました。以前はスロヴェニア人自身の国がなかったということが、のちにこの国が誕生した時に、スロヴェニア人の芸術的な創造性を開花させるきっかけとなったのです。スロヴェニア語は、民族のアイデンティティーの中核であり、砦となっています。様々な分野において、言語はスロヴェニア人のアイデンティティーを形成する役割を担ってきたのです。

経済

90年代のスロヴェニアは、経済面に成長がみられ、その他顕著な成功を収めた国の中でも模範的で、市場経済も比較的安定していました。近年の経済成長は、EU諸国の平均よりも高いものとなっています。女性の雇用もまた、EU諸国の中で最も高い水準です。

スロヴェニアの企業は、たくさんの



Špišnik. 写真: Vladimir Tos

スロヴェニア

ヒット商品や非常に画期的な商品を国内外で販売しています。Elan（エラン）スキーといえば、数々の有名スキー選手が使っている製品です。また、Seaway（シーウェイ）社のヨットやPipistrel（ピピストレル）社の超軽量飛行機も聞いたことがありますか。高品質で優れた設計のGorenje社（ゴレニエ）の家庭用品もご存知ではないでしょうか。小規模なベンチャー企業までは、挙げることはできませんが、そういった企業の商品も、海外市場に参入しています。この高い業績は、よく知られているスロヴェニア人の勤勉さや、地理的に欧州の貿易中心地であることなどが要因となっています。そしてこの業績が、スロヴェニア国内のビジネス環境やモチベーション、革新性の高まりへとつながっていくのです。各分野の専門に特化したクオリティは、あらゆる形でスロヴェニア経済に投資されています。

スロヴェニアの経済はサービス業に強く、情報技術の分野でもトップクラスのサービスを提供しています。また、製薬や自動車製造業の分野においても発展を続けています。その他の主な産業には、食品、電子機器、金属加工、化学製品があります。また、観光業も、ますます重要な産業となってきています。

科学と発展

今日のスロヴェニアの科学者たち

は、スロヴェニアの根強い科学的伝統に忠実なことで有名で、世界の知識体系に多くの発明を加えてきました。スロヴェニアの科学者たちは、ヤネス・ヴァイカルト・ヴァルヴァソル氏（17世紀、ロンドン王立協会会員）、ユーリィ・ベガ氏（対数表、18世紀）、ヨーゼフ・シュテファン氏（熱拡散の物理的法則、19世紀）、フリッツ・ブレーグル氏（有機化学でノーベル賞受賞、20世紀初め）あるいは、ロケットエンジニアのヘルマン・ポトチュニク・ノードウング氏など、インターネットのない、ローソクの光の元で研究している時代に活躍してきた先人の成果の後に続くという意気込みを抱えています。

スロヴェニアの最新の研究開発は、このパイオニアたちの範に倣っているのです。今日、研究開発は、多角的に取り組まれ、品質も高い基準を満たしており、世界からも広く認められています。コンピュータサイエンスやナノ技術などの特定の研究分野では、世界の上位国の中に入っています。知識は、国の発展の柱であり、スロヴェニアの研究方針は、他の先進国と同じ道をたどっています。

1991年以降、スロヴェニアはEU諸国の中でも積極的に活動しており、ヨーロッパ研究、開発プログラムや、フレームワーク・プログラム内だけでも1000以上のプロジェクトに参加しています。

観光

どの季節に訪れたとしても、スロヴェニアを満喫することができます。このヨーロッパの中央に位置する緑溢れる国は、実にすばらしい旅先となるでしょう。さまざまな景観が国境の向こうまで広がり、壮麗な景色の移ろいを満喫できます。きさくな人々に囲まれながら美味しい料理に舌鼓を打ったり、保養地やスパでリフレッシュするのも良いでしょう。旅行者が滞在できる農家もあり、さまざまなアクティビティも満喫でき、万人が楽しめる場所となっています。きっとご満足していただけることでしょう。

地中海からアルプスの頂上までは、距離で言うとうと車で2時間程です。パンノニア平原や、ドレンスカ丘までもそう遠くはありません。また、地下の世界には、ミステリアスなカルスト（鍾乳洞）が広がっています。これらすべてに共通するものは自然であり、そこは大昔から手付かずのままのかたちで残っています。もちろん、温泉も素晴らしいです！全ての観光スポットが近くにあり、アクセスしやすいので、一度スロヴェニアを訪れば、誰もがまた行ってみたいという気持ちになるでしょう。スロヴェニアの日照時間は年間2,000時間であり、四季折々楽しむことができます。苦言を呈しそうな客ですら、すっかり虜にする程、魅力あふれるスポットがスロヴェニアにはたくさんあります。ゴルフコース、スキー場等さまざまなスポーツ施設や、アドレナリンを増加させるような新種のスポーツ、レジャー気分を楽しめるスポーツも満載で、スポーツマニアをうならせます。サイクリング、ハイキング、さまざまなレクリエーションイベント等、あらゆるスポーツが体験できます。

スロヴェニアを訪れる観光客は、スロヴェニアのどんどこが一番好きなのでしょう。彼らは、きっと感情を込めて、「スロヴェニアは、けがれのない自然、穏やかな気候、親切なおもてなし、きさくな人々、多くの温泉スポットなどが、気持ちを穏やかにさせ、身体をリフレッシュさせてくれる、エネルギーに溢れた国であるところ」だと答えるでしょう。そして、「スロヴェニアの偉大などころは、何世紀も人と自然が共存して生まれた豊かな生物多様性とその価値観にある」と言うでしょう。それに、疑念の余地はありません。



ロガルスカ・ドリナ溪谷写真：Jakse-Jeršič



シュコツィアン洞窟群写真：Jakse-Jeršič



中世建築物の街ピランは、アドリア海沿岸にある魅惑的なシーサイドリゾートです。写真：Jakse-Jeršič

文化と芸術

芸術と文化は、スロヴェニア史の中では特別な位置を占めており、過去には国家体制、政府機関、行政機関の不足を様々な意味で補ってきました。スロヴェニア人の国民文化に対する姿勢は非常に真剣であり、スロヴェニアの文化施設、組織、協会のネットワークは、ヨーロッパの最先進諸国と匹敵するくらい非常に充実しています。実際、国の都市における文化生活はもちろん、スロヴェニア全域の文化生活も豊かです。

殆どスロヴェニア人には、本質的に、作家、画家、料理人、ダンサー、ワイン生産者、音楽家、演出家、俳優、ブロガー、彫刻師の気質があるといわれています。スロヴェニア人は、彼らが愛す



伝統的なカーニバルの人形、クレント写真：Tomo Jeseničnik



イドリヤ・レース。写真：Jaka Vinšek



Perpetuum Jazzile。写真：Irena Herak/Minutainmanj

るあらゆるものから芸術を生む術を知っているのです。世代から世代へ受け継がれてきた豊かな才能を持ち合わせた芸術家など、スロヴェニア人は、いつの時代もあらゆる芸術分野で活躍しています。文化的イベントには、信じられないくらい多くの参加者が集い、さまざまなフェスティバル（特に、夏の数か月間のフェスティバル）を楽しむため、各地から人々がやってきます。演劇やコンサート、読書などがスロヴェニア人には人気があり、これらの文化的伝統を誇りに思っています。また、スロヴェニアが誇る詩人であり、国歌「祝杯の歌(Zdravljica)」を書いたフランツェ・プレシエーレン (France Prešeren) 氏のことも触れておかなければなりません。国歌は、多国の人々の共存を願い、誠実な人々に乾杯を訴えています。



スロヴェニアは、世界で有名な軽種馬リビツァナーの誕生地です。写真：Darinka Mladenović

スロヴェニア人の楽しみ

これは、アルプス山脈、地中海、パンノニアの地域から、それぞれの文化や伝統を取り込んだ、現代のスロヴェニアの料理の写真です。この文化や伝統の潮目の地で、何世紀もの間、社会的、歴史的に発展してきたことにより、融合という意味合いだけでなく、多種多様な独創性、オリジナリティという意味合いで、料理においても独特の文化やライフスタイルが生まれました。

伝統的なスロヴェニア料理には、シリアル、新鮮な乳製品、肉、魚、野菜、ジャガイモ、オリーブ、塩漬ハムがベースとしてよく使われます。もちろん、地域によっては、その地方や町、そして修道院などの慣例の影響を受け、それらの文化を融合させているところもあります。また、料理と一緒に振る舞われるスロヴェニアのワインも、選りすぐりのものが多種多様に揃っており、それがトップクラスの食通たちを喜ばせています。グルメを追及される方には、温泉や保養地、観光客が滞在することのできる農家、一流レストランなどもおすすめします。



ポティツァは、スロヴェニアの代表的な祝祭用ケーキです。写真：Tomo Jeseničnik



バレエ写真：SNG (スロヴェニア国立歌劇場) オペラ&バレエ

「スロヴェニア (の愛) を感じる」、 「スロヴェニアの自然」

スロヴェニアは、自国のキャッチコピー「I feel Slovenia - スロヴェニア (の愛) を感じる」を打ち出しています。これは、自然とスロヴェニア人の勤勉さの調和を表現しており、けがれのない自然と、それを保護しようとする人々の意志を伝えています。スロヴェニアの半分以上の土地は森林が占めているので、緑色を基調としています。スロヴェニアでは、「緑」はただの色ではありません；「スロヴェニアの緑」は、自然の穏やかさとスロヴェニア人の勤勉さのハーモニーを表しています。それによって、けがれのない自然と私たちの自然保護への注力を伝えているのです。それは、スロヴェニア人が自然保護の推進に対する自身のモチベーションや、共通のビジョンを求めることを上手く結びつけたライフスタイルのバランスを象徴しています。また、スロヴェニアの緑の根底には、私たちスロヴェニア人の姿勢や、スロヴェニア人が手のひらで直に感じるものまでを象徴しています。そしてそれらは、スロヴェニアで経験する全ての感覚のハーモニーを伝えているのです。森の匂い、さらさらと流れる小川、美味しい水、そして木の柔らかさを彷彿させます。スロヴェニアをその芯から体感できるのがスロヴェニアの「緑」の魅力なのです。



リュブリャナ。写真：政府通信局